

精神科病院の長期入院患者の退院にかかる意思決定支援のかかわりに関する研究
—精神保健福祉士へのインタビュー調査を通して—

○ 大分大学大学院 荒木 菜奈 (9996)

上白木 悦子 (大分大学大学院・7259)

キーワード：長期入院患者，精神保健福祉士，意思決定支援

1. 研究目的

精神保健福祉士 (Psychiatric Social Worker ; PSW) による意思決定支援のあり方，精神科病院に長期入院する患者の意思決定や患者に代わり意思決定を行う家族等の負担を軽減できるような支援に関する研究も十分ではない。

そこで本研究では，PSW の意思決定支援のあり方，及び，患者に代わって退院にかかる意思決定を行う家族等の負担を軽減するための方法を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

精神科病院において，入院患者の退院支援を行っている PSW 3 名に対して，半構造化面接を行った。インタビュー項目 (①意思決定支援とはどのようなことか②意思決定支援をどのような場面で行うのか③意思決定支援を行った時の達成感④支援において困難さを感じることや葛藤⑤意思決定支援を行うときに心がけていること) は，先行研究等(大谷 2007 ほか) をもとに参考に作成し，複数人の専門家によるレビューを受けた。半構造化面接により得られたデータは，質的研究における定性的コーディングによる分析(佐藤 2008) を行った。

3. 倫理的配慮

大分大学福祉健康科学部倫理委員会における承認(承認番号：F210032)を得た。

4. 研究結果

インタビュー調査に同意を得た PSW は男性 1 名，女性 2 名であり，精神科病院における経験年数は，5 年，4 年，3 年であった。

インタビューから得られたデータを分析した結果，【長期入院による問題点】【患者本人の意思決定がもたらすこと】【患者の意思決定を大切にすること】【家族等の負担軽減】【精神疾患の治療の特徴】【意思決定支援の場面】【PSW にとっての意思決定支援】【PSW が行う支援】【患者像の認識の相違】【連携】【支援における心情】【新型コロナウイルスによる問題発生】の 12 のカテゴリーを抽出した。

5. 考察

1. 長期入院患者やその家族等による意思決定の負担軽減

入院の長期化により、患者が、病院の生活リズムや意思決定場面の少ない環境に慣れることで、『自己決定の感覚の喪失』につながると PSW は感じていた。また入院が長期化し、社会とのつながりが希薄化することは、『社会でのあたりまえ』の認識や判断の感覚が失われ、地域生活に課題が生じるだけではなく、退院に向けた意思決定に影響を及ぼすと考えられる。さらに患者が自ら将来を決めることは、問題を「乗り越える」ことにつながるが、退院後の生活について自己責任で決定を委ねられることは、不安や困難さともなりうる。

以上のことから、PSW の視点から、長期入院患者とその家族等は、意思決定において決めること自体への困難さ、決定に対する負担等の問題を抱え、さらに、患者は、退院後も『治療と生活の共存』といった精神疾患の特徴を持ちながら暮らしていると考えられる。そのため、PSW は、意思決定に問題や葛藤を抱える患者及び家族等の語りから、患者、家族等の双方が納得した意思決定の実現に加え、患者のみならず、家族等の意思の確認を行い、相互に負担の少ない生活を見据えた意思決定支援を行うことが求められると考える。

2. PSW による意思決定支援

PSW の意思決定支援の場面には、『診察時』『病棟での面談』『雑談のような形での会話』があり、入院中の様々な場面とともに、受診前から退院後まで、患者や家族等との話し合いの場を設けている。本調査を通して、PSW にとって意思決定支援は、『選択肢を詳しく説明』し、『患者の決定』はもとより『失敗の経験も支える』とともに、『患者だけではなく家族等の決定も支える』意味があることが明らかになった。PSW は、退院後の生活に照らし合わせた情報を提供し、最終的に患者が意思決定できるよう、エンパワメントの考え方や患者が決定可能な環境の整備、患者のストレングスを生かす働きかけを行っている。

以上を踏まえ、長期入院患者の意思決定支援において、PSW は、患者を生活者として理解する視点を持ち、長期にわたり患者及び家族等とかわることが求められる。PSW による意思決定支援を通して、患者及び家族等の意思が最大限に尊重され、精神的な負担の少ない意思決定が可能となれば、長期入院患者が退院し、希望する場所での生活の実現につながると考える。

参考文献

- 東森華子・宮澤泰輔・石田明史ほか (2017) 「クライアントの自己決定を尊重し支援する精神科ソーシャルワーカーの視点」『京都市立病院紀要』37(2), 63-6.
- 中坪太一郎 (2009) 「統合失調症の家族研究の展望」『東京大学大学院教育学研究科紀要』48, 203-11.
- 大谷京子 (2007) 「<研究ノート>精神科ソーシャルワーカーと精神障害当事者との関係性」『関西学院大学社会学部紀要』103, 129-41.
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法 原理・方法・実践』新曜社。